



風吹けば 来るや隣の鯉幟

こいのぼり



高浜虚子の句に「風吹けば

来るや隣の鯉幟」があります。

垣根を越えて、自分の家の

庭の上までなびびっている大き

なこいのぼりが目に浮かんで

くるようです。

少子化が言われて久しい今

日、子が生まれた喜び、その

成長を願う親心が、5月の風

をはらんで隣近所の頭上に伝

わつてきます。

こいのぼりを揚げる風習は、

武家が端午の節句に旗指し物

を玄関に並べているのを見た

江戸時代の町人が、武具の代

わりにこいのぼりを立てたの

が始まりのようです。

子が生まれたうれしさを他

人にまで知らせたい親心は、

マンションのベランダからの

ぞく小ぶりのこいのぼりから

も何うことができます。しか

し、広く世界を見渡せば、そ

の誕生や成長を示すこいのぼ

りを立ててもらえる子どもた

ちばかりではありません。

今この地球上では、生まれ

た赤ちゃんの3分の1以上が

出生登録をされていない、い

わば公的に存在しない「顔の

見えない子ども」になってい

るといわれています。

貧困や差別、武力紛争によ

って、健康な成長や教育から

締め出された子どもらの現状

は深刻です。

貧しい小作人の家に生まれ

た、ある歌人の切ない夢の覚

め際を詠んだ一首があります。

少年食時のかなしみは

烙印のごときかなや

夢さめてなほも

なみだ溢れ出づ

家の貧しさがつらくないは

ずはありません。それでもあ

りのままの貧しさを見てほし

いと願ったのは、報われずと

も額に汗して働き、足らずと

もつましいやりくりをする父

と母の背中に貴いものを感じ

ていたからでしょう。

大人たちが背中を鏡に映し、

ふと物思いに浸る「こどもの

日」は、ほろ苦い子ども時代

を思い出す「おとなの日」で

もあります。

子どもらがこの世に生を受

けたことをみんなが祝福し、

元気に育ってほしいと願うこ

いのぼり。

この世の全ての大人が、風

薫る五月の空に元気に泳ぐこ

いのぼりをしっかりと立てて

あげねばならないと誓う日で

もあります。

指宿市長 豊留悦男

